

質問日	令和4年9月29日(木)		質問方式	分割方式			
質問順位	2	会派名	自由民主党浜松	議席番号	18	氏名	鈴木 幹夫
表題	質問内容					答弁者の職名	
1 子供の成長を切れ目なく支える連携について	<p>幼児期の教育は単独で考えるのではなく、子供の成長を切れ目なく支えるため、義務教育以降の長いスパンの学校教育をも見据え、その連携の中で質の高い幼児教育・保育の実現を目指す必要がある。</p> <p>そこで、以下3点について伺う。</p> <p>(1) 浜松市教育総合計画では、キャリア教育を核とした人づくりを推進している。計画には、幼児期から大人までの学びのつながりを大切にすることが明記されており、幼児教育においてもキャリア教育を推進することが重要であると考え。そこで、キャリア教育の基盤となる幼児期において、就学前施設にどのように指導や支援をしていくのか伺う。</p> <p>(2) 浜松市子ども・若者支援プランでは、「認定こども園、幼稚園、保育所等と小学校の連携・接続の体制づくりの推進」について記載がある。行政窓口は、幼児教育が市長事務部局、小学校教育が教育委員会と所管は違うが、部局間での十分な連携や協力のもと、幼小連携を推進していくことが必要であると考え。小学校では幼児教育からの接続を考慮し、スタートカリキュラムの必要性が言われている。接続期のカリキュラムの必要性に鑑み、就学前施設におけるカリキュラムに対する具体的な方策について伺う。</p> <p>(3) 本市の子供たちは様々な就学前施設に通っており、その中には特別な支援を必要としている子供もいる。特に市立幼稚園では、特別な支援を必要とする子の割合が非常に高いと聞いている。インクルーシブ教育の考えのもと、全ての就学前施設において一人一人に応じた支援をし、子供の成長や支援が次につながることを重要であると考え。</p> <p>そこで、子供の成長を切れ目なく支え、小学校へとつないでいくための市の考えと対応を伺う。</p>					吉積こども家庭部長	
2 ICT教育環境整備の今後について	<p>GIGAスクール構想により、学校現場では子供一人1台整備されたタブレット端末の利活用が進み、授業での指導方法も変化していることがうかがえる。そんな中、令和3年度から5年度までの複数年契約のICT支援員は、学校現場でのICTの利活用推進にとって大変有効で欠くことのできない存在であり、今後においてもICT支援員の継続した支援が必要不可欠との意見を聞くことが多い。</p> <p>また、ICTの利活用推進のために、これまで校内ネ</p>					田中学校教育部長	

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>ネットワークの整備や学習ソフトの導入、タブレット端末の前倒し導入等、ICTを活用した学習のための情報環境が飛躍的に整備されていることは認識しているが、今後さらに利活用が進めば、さらなる追加整備が必要になると考える。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) ICT支援員の在り方や役割は、今後どのようにしていくのか、考えを伺う。</p> <p>(2) 学校の情報環境について、今後どのような整備を予定しているのか伺う。</p>	
<p>3 教員の資質能力の育成について</p>	<p>教育を巡る状況は、グローバル化や情報化の進展が速度を増している中で、教員の高度な専門職としての新たな知識技能の修得に継続的に取り組んでいく必要が高まっていると感じる。そんな中、本年7月には、教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部が改正され、教員免許更新制が廃止された。また、教員に求められる資質能力は、これまでも中央教育審議会から繰り返し提言がされ、使命感や達成感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的知識などが、資質能力として挙げられてきた。</p> <p>予測困難な時代の中、複雑化、多様化する学校において、教育を取り巻く変化などを踏まえた教員の資質能力の向上は喫緊の課題であり、キャリア段階に応じて資質能力を育成していくことが重要であると考えているが、どう進めていくのか伺う。</p>	<p>宮崎教育長</p>
<p>4 ヤングケアラーへの支援について</p>	<p>ヤングケアラーの存在は社会問題として耳にする機会がぐんと増えた。年齢に見合わない重い負担や責任を背負っている子供たちを支援するため、まずは早期発見、早期対応に取り組む態勢を築くことが急務である。</p> <p>先日、学校などで把握したヤングケアラーの情報を、各自治体の一部門に集約する新たな枠組みづくりに、厚生労働省が取り組んでいくことが報じられた。</p> <p>ヤングケアラーの支援対策強化に向け、大きく動き出している状況の中、以下2点、本市の取組について伺う。</p> <p>(1) 昨年末に、静岡県が県下の小学5年生から高校生までを対象にヤングケアラー実態調査を行い、本年6月に結果が公表された。本市の状況についても、結果の一部が広報はままつ9月号で紹介されたところであるが、本調査結果の分析と見解を伺う。</p> <p>(2) 昨年度にヤングケアラー支援推進体制として庁内会議を立ち上げたと聞いているが、これまでどのような協議がなされているのか伺う。</p> <p>また、本年度新規事業として「ヤングケアラー研修推進事業」が予算化されたが、本年度の実績と今後の取組を伺う。</p>	<p>吉積こども家庭部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>5 ごみ屋敷問題に関する条例の制定に向けて</p>	<p>物の堆積により周辺的生活環境を不良にする住宅、いわゆる「ごみ屋敷」の問題については、環境部を中心に庁内ワーキンググループで対策が検討され、本年5月に「浜松市「ごみ屋敷」対策マニュアル（Ver. 1.0）」が作成された。また、先日、各区協議会において、「ごみ屋敷」に関する条例の検討について市から説明があり、検討段階ではあるが条例案の方針や概要が示された。</p> <p>そこで、以下3点について伺う。</p> <p>(1) 各区協議会では、「ごみ屋敷」に関する条例についての質問や意見が多く寄せられたとのことで、市民の困り感や関心の高さがうかがえる。今後、条例案を作成し、パブリックコメントの実施を予定しているとのことだが、現時点で市民からどのような意見があったか伺う。</p> <p>(2) ペットの多頭飼育と敷地内樹木の繁茂は、「ごみ屋敷」と同様に周辺的生活環境を不良にする原因として大いに想定される。市で「ごみ屋敷」に関する条例を制定する場合は、これらの問題も解決できるように条例の対象案件に追加する必要があると思うが、考えを伺う。</p> <p>(3) ごみ屋敷の原因者に対する福祉的支援を必要とする案件が大変多いと聞いている。また、ごみ屋敷対応は支援を中心に据える取組とうたっているが、具体的にはどのような支援を想定しているのか伺う。</p>	<p>藤田環境部長</p> <p>〃</p> <p>山下健康福祉部長</p>
<p>6 急増するヌートリアによる被害をなくすために</p>	<p>野生化したヌートリアは、生態系被害をもたらす動物として「特定外来生物」に指定されている。ここ数年は、生息域が拡大し、目撃情報とともに農作物被害の情報が急増している。令和3年度から対策予算を計上し、業務委託による捕獲が始められている。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 本市における目撃情報、農作物被害の状況、また、これまでの捕獲実績と、その効果について伺う。</p> <p>(2) ヌートリアは繁殖力が強く、ねずみ算式に増えていくとの情報があり、今後、生態系への影響と農作物被害の急増が懸念される。農作物被害対策と捕獲事業のさらなる拡大・充実についての考えを伺う。</p>	<p>藤田環境部長</p>
<p>7 地域の力で浜松の魅力を高め持続可能なものに</p>	<p>伝統的な歴史や文化の薫り高く、活気にあふれた浜松の魅力をさらに高め、持続可能なものとしていくためには、やらまいかの精神にあふれた地域の力を効果的に生かしていくことが大切であると考えます。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 遠州灘海浜公園篠原地区及び県営野球場の整備と、それらと一体的に進めるべく道の駅の建設について、現在、地域住民、企業、行政の思いや願いが合致して大い</p>	<p>鈴木市長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>に盛り上がっていると感じている。</p> <p>こうした状況の中で、地域の魅力や利便性、交流人口等の拡大、地場産業の振興及び周辺地域の活性化に向けて、地域と連携しながら道の駅を建設する事業を今後どのように展開していくのか伺う。</p> <p>(2) 地域の歴史や文化を地道に調査・研究あるいは学習している個人やグループがある。</p> <p>浜松の魅力を発信する好機である大河ドラマ「どうする家康」の放送に合わせた様々な事業にも、こうした個人やグループの力を最大限生かすべきであると考えているが、考えを伺う。</p>	<p>鈴木観光・ブランド振興担当 部長</p>